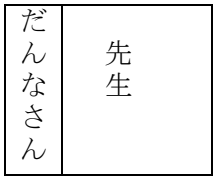
【学　　年】　　２　年　　【内容】算数「分けた　大きさを　あらわそう」(全２時間)

【単元目標】

分数を用いるとものを半分や四半分にした大きさを表せることを知り、日常生活の中で分数を用いる能力を身につけられるようにする。

【実践内容】

１．担任が半分にしたケーキの絵を見て気が付いたことを発表する。

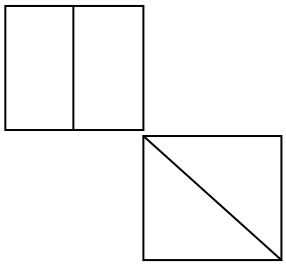


・大きさが違う。喧嘩になっちゃうよ。

・同じ大きさに分けないと、半分じゃないよ。

・ぼくは、半分に分けられるよ。

２．折り紙を使って、けんかにならないようにケーキを半分にする。(操作活動)



・端と端を重ねて折って切ったら、**同じ大きさが２つできたよ。**

・角と角を重ねて折って切ったら、**同じ大きさが２つできたよ。**

※２つの紙を重ね、同じ大きさになっていることを確認させる。

※「半分にする」とはどういうことか確認する。

３．まとめ

・同じ大きさに２つに分けた１つ分を、もとの大きさの「二分の一」という。　$\frac{1}{2}$ と書く。

【知的好奇心について】

ケーキを分けて食べた経験は多くの児童がしている。そこで、先生が旦那さんの誕生日のケーキを半分に分けて食べたことを話し、大きさの違う２つのケーキの絵を提示した。いかにも不公平感があるケーキを見せることで、「半分にする」ことについて関心を持って意欲的に学習に取り組むことができると考えた。

【子どもの様子・反省】

大きさの異なるケーキの絵を見せることで、子どもたちは「半分にする」ことにとても関心を持って学習することができた。「先生のケーキの分け方はおかしいよ。」「大きさが違うと喧嘩になる。」「同じ大きさに分けないと半分じゃないよ。」「ここで切れば、半分になるよ。」など、「半分にする」ことについて多くの考えが出た。そして、「半分にする」とは、けんかにならないように同じ大きさに２つ分けることであることを考えることができた。さらに、折り紙を使って実際に半分にする活動をすることで、２枚の紙を重ね、大きさを確かめながら「半分にする」ことについて理解を深めることができた。

しかし、操作活動では手先の器用さに差があり、同じ大きさに分けることが困難な児童がいた。半分に切った紙を一生懸命重ねて、はみ出した部分を切り取っている姿も見られた。２人１組やグループで活動を行う方法やあらかじめ切った紙を用意しておくなど児童の実態を把握した上で、手立てとして考えておく必要があった。

また、「半分にする」ことへの理解が十分にできても $\frac{1}{2}$ と表すことがなかなか理解できず、分母と分子が逆になってしまう子がいた。分数は少ない時間での学習になるが、今後分数を学習していく上での基礎となるので、書く練習を多く取り入れたり、練習問題を繰り返し行ったりすることが大切であると感じた。